

令和5年 第8回岐阜市教育委員会定例会会議録

日時：令和5年7月26日（水）

午後1時30分から午後5時00分

会場：岐阜市役所10階 10-2会議室

【教育長】

これより第34号議案 令和6年度岐阜市立小学校において使用する全教科の教科書の新たな採択並びに第35号議案、引き続き中学校で使用する全教科の教科書の採択及び第36号議案、岐阜特別支援学校で使用する教科書の採択承認に係る審議を始める。

最初に採択検討委員会の委員長である私（水川教育長）から、これまでの経過について報告する。5月24日に実施した教育委員会定例会で承認いただいた採択検討委員会の第1回を5月30日に開催した。その後、岐阜市の小学校教職員75名の調査研究員により、6月13日、6月26日、7月3日の3回、調査研究委員会を開催し、教科、種目ごとに調査研究を進めた。各教科、種目ごとの調査研究の内容については、7月18日開催の第2回採択検討委員会において報告され、調査研究資料について協議した上で、各教科、種目ごとの調査研究内容が適切かつ十分であると決定をした。採択検討委員会で議決承認した「調査研究資料」を手元に配付した。

以上を踏まえ、本日は採択権を有する教育委員会において、各教科、種目ごとに採択決定することになる。具体的には、小学校は11教科、13種目の全てについて、また、中学校は10教科16種目全てについて、特別支援学校は採択する教科書全てについて、採択方針に基づいて決定することになる。詳細については、事務局である学校指導課から報告させていただく。では、事務局からお願いします。

【事務局】

本委員会の内容及びこれまでの採択検討委員会の審議については情報公開の対象になる。本日の内容も、情報公開の際には、議事録としてホームページに掲載させていただく。

教科書採択においては、法令で「教科書展示会」の開催が義務付けられている。本年度は、文部科学省の告示により、6月14日から14日間、市内3か所において教科書展示会を開催し、一般の方から資料にあるように73件の貴重なご意見をいただいた。

これらの意見は、第3回調査研究員会で報告し、意見書に書かれていた内容も踏まえて調査研究を進め、第2回採択検討委員会でも説明や質疑の中に話題として取り上げられている。

【教育長】

それでは、各教科、種目ごとに説明をさせていただく。

お手元の資料やタブレット端末内には、各教科、各種目の調査研究結果の資料が格納されている。また、机上には、各教科、各種目の教科書見本本を用意しているので、該当箇所を確認していただきたい。

それでは、小学校国語から順に提案していく。
教科国語、種目国語について事務局から説明を求める。

【事務局】

国語では、3者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさをまとめながら、調査研究が進められた。小学校学習指導要領では、「言葉による見方・考え方」を働かせ、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することが求められている。そのため、教材配列や言語活動の工夫や充実という点などに着目して調査研究を進めた。その結果、「評価一覧」にあるように、着眼点1（3）学年の発達段階に応じて適切に言語活動が設定され主体的に学びを進めることができること、着眼点2（1）既習内容の上に新たな学びを積み上げ、見通しをもって学習に進むことができるような個別最適な学びへの工夫があること等で「光村図書出版」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、主に「郷土への誇りや愛着を育む教材」、「表現することの重視」などについて話題になり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。審議をお願いする。

【教育長】

国語についての質問・意見を求める。

【委員】

ICTを活用した学習活動の充実という観点からも検討をしていると思うが、デジター教科書も含めての検討ということではよろしいか。

【事務局】

多様な子たちが学ぶに当たって、写真や動画など適切なものが位置付いている。

【委員】

デジター教科書は確認されていないということか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員】

デジター教科書の活用場面も増えてきているので、その内容も考慮していきたい。

【教育長】

お手元を取っていただいて、御覧いただいてもよい。

【委員】

印刷・製本等のところで、光村図書が二重丸になっている。主にどの辺りが高いと思われたのか。

【事務局】

体裁としては、低学年では、分かち書きや文節改行が適切に行われており、話のまとまりが分かりやすくなるよう十分な配慮されている。

1年生の教科書の『おおきなかぶ』という教材が東京書籍、光村図書両者にあるが、そちらを見ていただくとよい。1ページのまとまりを見たときに、光村図書の方が改行など

配慮されており、子どもたちが把握するにはとてもよいということや、挿絵の場所が文字にかからないよう、適切な位置になっているということなどからも、光村図書の方が二重丸となった。

【教育長】

『おおきなかぶ』の話が出てきたので、確認する。光村図書1年生上巻66ページ、東京書籍1年生上巻82ページを見ていただきたい。

【委員】

確かに文章として、東京書籍の方が1行当たりの文字数が多く、読むのがつらくなる子もいると考えられる。その点の配慮は確かに光村図書の方が配慮されている印象はある。

【教育長】

委員が今言われたような1行の文字数が違う。文字の大きさも異なる。挿絵も異なる。では、種目、国語の採択について採決する。

「光村図書」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の国語については、「光村図書」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科国語、種目書写について事務局から説明を求める。

【委員】

書写では、3者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさをまとめながら調査研究が進められた。学習指導要領では、書写は「知識及び技能」の「(3) 我が国の言語文化に関する事項」に位置付けられ、「日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成すること」が重視されている。そのため、発達段階に応じた技能を身に付けられる教材の位置付け、日常生活へのつながりや、毛筆と硬筆の関連的指導などに着目して調査研究が進められた。その結果、「評価一覧」にあるように、視点1(2) 全学年にわたり、学び手の立場に立った書面づくりがなされていること、視点2(3) 学びを各教科の学習や日常の様々な場面に結び付けるような言語活動の工夫があること等、書写の知識・技能を身に付けることに適している「光村図書」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、「手本の数」や「小筆の扱い方」などについて話題になり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。審議をお願いする。

【教育長】

種目、書写についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

視点1(1)で、全学年にわたり学び手の立場に立った書面づくりという点について、初めて毛筆の学習を行う小学校3年生について、東京書籍は3年生4ページ、光村図書は3年生の最初から4ページ目に用具の準備というページがある。

東京書籍の方は1ページの中に詰め込まれている文章量が多く、光村図書の方は情報量

が少ない。写真がしっかりとあって目に訴える形で構成されている。子どもたちが毛筆をスタートするにあたり情報量が精選されており、無理なく学んでいけるようになっている。また、二次元コードを使いながら、右手で書く人だけでなく、左手で書く人に対して、どのように筆を進めたらよいかなども確認できるような配慮もある。こういった点において、光村図書の方に二重丸が位置付けられた。

【委員】

岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書というところで、光村が二重丸だが、何か岐阜に由来したところがあるのか。

【事務局】

県域で見ると、東京書籍は5年生最後の教材で、高山市の七夕の短冊飾りが1か所のみ位置付けられている。光村図書では、3年生の教科書53ページに美濃の手すき和紙について扱われている。また、45ページの書き初めのところには二次元コードがあり、読み込むと岐阜県の子どもの作品が見られるようになっている。さらに、子ども俳句、相撲大会ということで、6年生の子どもの俳句が1点載っている。そういった点から、光村図書の方が岐阜県の子どもの作品から、また岐阜県に結びつけられるということで二重丸となった。

【委員】

3年生の教科書を比較して見ているが、光村図書の半紙の説明のところ、つるつるしている方に書くと書いてある。東京書籍は表（つるつるしている方）に書くと書いてあり、教育出版は、つるつるしている面が表と書いてある。どれが分かりやすいかは難しい話であるが、結局、どっちに書くのかということがすぐ分かるという意味では、光村が分かりやすい。実際に触ってつるつるだから、こっちに書けばよいと。結果としてそれが表で、反対が裏というのはその後分かればよいことであって、最初に何の前知識もなく、さあ、書くぞというときに必要な情報としては光村図書が最も端的に示していると思う。

光村図書の評価について、唯一、2（1）に丸、二重丸がついていないが、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実については、何らかフォローする手だてなどはあるのか。

【事務局】

2（1）について、「・」がついている箇所について、例えば光村図書2年生の教科書34ページ、東京書籍2年生の38ページの1年間の学びを振り返ろうというところを比較する。光村図書の方は、学びの振り返りについて「思い出を書こう」と書いてあるだけであるが、東京書籍の方は、「1年間の中で気をつけることを1つ選んで書いてみよう」というように、気をつけることをこれまでの学びを振り返るように載せてあり、子どもが1つ選んで、気をつけて書くことができるようにする工夫がある。そういった点において、東京書籍の方がよいということで、光村図書が「・」になった。教師がこの1年間で学んだ力についてしっかりと子どもたちに示し、教科書にある著者の言葉などを出しながら位置付け、子どもたちが思い出を書こうというように活動を位置付けることで補うことができる。

【委員】

了解した。教科書に直接そこまで書いていないが、実際に使用する際にそこは留意すればフォロー可能であるという趣旨が分かった。

【教育長】

では、種目、書写の採択について採決する。

「光村図書」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の書写については、「光村図書」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科社会、種目社会について、事務局から説明を求める。

【事務局】

社会では、3者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、調査研究が進められた。その結果、資料にあるように社会科の本質に関わる資質・能力の育成という点で、特に着眼点1(1)「資質・能力の育成に向けて働かせる社会的な見方・考え方」や着眼点1(3)「問題解決的な学習に取り組むための構成」において、その分かりやすさという点において、また、着眼点2(1)「ふるさとへの愛着と誇りを育むための岐阜県に関わる事例」において、岐阜県海津市や下呂市の事例を詳しく取り扱っている点で、「東京書籍」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、3・4年生における地域を取り扱う単元の学習について話題となり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。審議をお願いする。

【教育長】

種目、社会についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

社会的な見方・考え方について比較する。東京書籍5年生上巻2ページ、教育出版5年生上巻5ページ、日本文教出版5年生上巻7ページで比較する。東京書籍は、位置に着目するところはキャラクターが空を飛んでいる様子、時間に着目するところはタイムマシンで動いているような様子等イラストで示している。また、比較する、分類する、総合する、関連づけるという考え方については、はてなマークでひらめいたようなマークを位置付けている。こういった見方・考え方を働かせるとよいというところは、どの学年の教科書でも明確に記されている。

【委員】

東京書籍の教科書には下呂温泉が写真入りで載っており、話題のところを取り上げている教科書だと感じる。また、5年生の初めに社会で尖閣諸島や北方領土といった領域の話がある。国の方針なので仕方ないと思うが、その中で、中国は領土と主張しているが、日本政府として領土問題はないということを示している。その辺りが、子どもにしてみると混乱してしまうような内容ではないか。どの教科書が一番分かりやすく書いてあるのかと

いうのを見たが、あまり変わりはないと感じるがどうか。

【事務局】

委員ご指摘のとおり、大きな差異はないと考える。

【委員】

承知した。

【委員】

6年生になると歴史学習が始まる。世界大戦のことについては、どちらの教科書が適切に書いてあるのか。大戦の経緯とか戦後とか、中学生で詳しく学ぶが、小学生で適切に紹介して示してあるのは、どちらか。

【事務局】

3者とも国の検定を通過しているため、どれも内容に関しては適切であると判断している。

【委員】

5年生の中身を見ていると、例えば工業に関して、現状と将来に向けてということについては、各社それぞれ個性があって面白い。今後、ただ製品を作って売っていけばよいという時代から、環境や使う人のことを考えてという部分がフィーチャーされていくだろうと思っている。その辺りの今よりも未来につなげるという意味では、日本教育出版にSDGsという項目があったり、東京書籍には環境への配慮という部分があったりするが、その点は、どう評価されたのか。

【事務局】

SDGsに関しては、日本文教出版に記述が多い。ただ、どの発行者においてもSDGsに触れており、環境面に配慮すること等は、どの教科書も内容的にカバーしている。そこに差異はない。

【委員】

承知した。

【委員】

社会科の教科書を見るときには、憲法とか、政治とかに注目して見ることが多い。6年生の政治のところを比較して見ると、どの発行者も話し合っているとか、交流してみようということが書いてあるのは一緒であるが、東京書籍の政治国際編の34ページ、35ページでは、優先順位をつけて考えるということが書いてあり、具体的には、ダイヤモンドランキングの手法を使ってということや、ただ話し合うというだけではなくて、話し合っ決めていくための技法を具体的な例を挙げて示している。ただ、話し合ってみようではなくて、話し合うために必要な技法を載せているという意味で、ほかの2社よりは優位かなと受け止めて好感を持った。

【教育長】

では、種目、社会の採択について採決する。

「東京書籍」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の社会については、「東京書籍」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科社会、種目地図について事務局から説明を求める。

【事務局】

地図では、2者の教科書見本について、資料①にある着眼点に基づいて、調査研究が進められた。その結果、着眼点1(2)において、初めて地図帳を手にする3年生にとって、地図の見方や利用の仕方が分かりやすく、地図帳への親しみを感じられることや、着眼点1(3)「主体的に地図帳を活用して学習に取り組むための構成」において、楽しみながら問題を解くことを通して、深い学びにつながるような工夫がなされていることから、「帝国書院」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、教科書との関連付けという点について話題となり、質疑応答ののち、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、地図についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

大きな差が見られたところでいうと、帝国書院の7ページと東京書籍の9ページで比較する。東京書籍は、7ページから14ページまでに地図のきまりや地図帳の使い方、つまり学び方に関わるページが掲載されている。一方、帝国書院は、7ページから20ページまで、地図の約束や地図帳の使い方などを取り上げている。さらに、帝国書院では、冒頭6ページに、広く見渡す地図として、3年生の子でも親しみやすいように、イラストで特徴が分かるような構成としている。こういった点から、特に入門期に親しみやすいという点で、帝国書院が優位だと考えられた。

【委員】

先ほど、種目社会では東京書籍を採択したが、地図について、特に同じ会社にした方がよいとか、そうでないとか、その辺りは議論にはならなかったのか。

【事務局】

特に二次元コードによる動画で効果的な関連が見られる一方で、先ほど触れたとおり、帝国書院にしかないページがあることを重視し、使いやすさや学びやすさという点で帝国書院が上位となった。

【委員】

承知した。

【委員】

地図を見るといろいろな発見があり、私は地図を見るのが好きである。今後も、子どもたちがいろいろな形で地図を見ていくにあたって、地図の約束だとか、基本的な見方という点を多ページにわたって紹介してあるということの評価されたことは、素晴らしいと思う。

【教育長】

では、種目、地図の採択について採決する。

「帝国書院」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

***委員全員の挙手を確認**

採決の結果、小学校の地図については、「帝国書院」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科算数、種目算数について事務局から説明を求める。

【事務局】

算数では、6者の教科書見本について、資料①にある着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。その結果、着眼点1(3)の「主体的・対話的で深い学び」について、吹き出しにより「数学的な見方や考え方」をどの問題でどのように働かせるのかを促していることに加え、着眼点2(1)の「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について、思考の流れが子どもたちに分かりやすく記述してあること等の理由から、「大日本図書」の評価が最上位になった。採択検討委員会では、一般の方からの、「報道された『大日本図書』の不適切な対応についてどのように考えるか」という意見があり、子どもたちが、この先4年間使い続ける教科書であるため、岐阜市の子どもたちのウィークポイントにマッチするものであること、教員が指導しやすく、子どもが使いやすいかという観点で適正に評価できること、また、全国学力・学習状況調査の岐阜市の正答率が全国平均よりも高い理由の一つとして、「大日本図書」の教科書により、1年生の段階からテープ図や数直線図を用いて立式する学習を積み重ね、図と式と言葉を丁寧に結び付けて考える力を育てていることについて協議がされ、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、算数についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

余りのある割り算の内容について、大日本図書3年生上巻の95ページ、東京書籍3年生上巻の89ページを比較しながら説明する。大日本図書の問題は、「30本の傘を8本ずつ傘立てに入れます。傘立ては、何台要りますか。」という問題で、この余りをどう処理するかという問題で、東京書籍の方では、「ケーキが23個あります。1箱に4個のケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいですか。」という問題で、余りの分を入れる箱も入れなければいけないので、割り算の答えがそのまま問題の答えにはならない。大日本図書でいうと、96、97ページにも同じような問題がある。97ページの発見、考え方という真ん中の赤い枠で囲ってあるところに、「割り算で余りが出たときは、問題の場面に合わせてもう一度考えて答えを求めます。」と書いてある。割り算の答えがそのまま問題の答えにならないので、問題場面に立ち返って、もう一度、答えを考え直すという数学的な見方、考え方をここで価値付けている。

【委員】

大日本図書については、教科書展示会の意見の中でもいろいろ厳しい意見が見られた。確かに、教科書の採択に関わってはもちろん適正でなければならないということは言うまでもない。肝心の教科書の内容が、そのことで全て否定されるものかということ、そういうものではないと考える。純粹に内容を見て、それが岐阜市の子どもたちの学びに重要であれば採用されてしかるべきであると考え。そういう観点で、検討委員会でも検討した上で、採択を出されたということと理解した。市民の懸念の部分は気持ちとしては分かるが、内容は検討委員会では適切に判断をしたものと理解したい。

【委員】

大日本図書の個別最適な学びと協働的な学びの具体的な充実、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善とある。その点について二重丸になっているが、具体的にどれを見ればよいか。

【事務局】

大日本図書5年生の28ページ。多様な子どもの考え方が複数示されており、それぞれの考え方についてどう思うかと問いかけ、協働的な学びを促すような構成になっている。30ページ、31ページも同様に、あかりさん、そうたさん、ほのかさんの考えをもとに、多様な考えが導き出されるような構成になっている。また、大日本図書はQRコードがたくさんあり、例えば、5年生の219ページのQRコードは、過去に学んだ学習を振り返られるように、過去の学習とつなげた動画が出てくるようになっている。長方形を学んでいるので、そこから平行四辺形に動く様子が出てくる。

【教育長】

これは動画のコンテンツが豊富に入っているということか。

【事務局】

量は大変豊富である。

【教育長】

振り返ったり、自分で学びを進めたりということが可能であるということか。

市民の皆さんからの意見ということはあったが、編集そのものが子どもたちの学びということに適しており、随分工夫された編集になっているという意見であった。

【委員】

今、学校は、漢字ドリルや計算ドリルといったドリル副教材の配布が少なくなってきたと聞いている。しかし、私はコストパフォーマンス的にはすごくよいものだったと思っている。その分、教科書の問題を家庭学習で解いていく子たちが増えていると思われる。また、不登校児童も家で教科書を中心とした勉強を進めると、親としては安心だと思うが、教科書は問題に対して解答が示されていないので、その点で何か配慮してあるようなことはないか。

【事務局】

大日本図書の練習問題にもQRコードがついており、それを見ると、解き方を想起させるような動画が載っている。

【委員】

承知した。解答があると、よりよいものだと思う。

【教育長】

では、種目、算数の採択について採決する。

「大日本図書」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

***委員全員の挙手を確認**

採決の結果、小学校の算数については、「大日本図書」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科理科、種目理科について事務局から説明を求める。

【事務局】

理科では、6者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴、よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。なお、文部科学省検定に合格した発行者は7者であるが、そのうちの1者「信州教育出版」から見本本の提供がなかったため、提供がなかった1者を除く6者について調査研究が進められた。その結果、「東京書籍」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、調査項目1（1）「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成する」や調査項目2（2）「ICTを活用した学習活動の充実」について話題となり、「東京書籍」の教科書は、子どもにも教師にも使いやすいものになっているという意見が多くあった。また理科ノートがダウンロードできたり、実験方法の動画が見られたりするなど、「個別最適な学び」に有効であるという点からも「東京書籍」が優位であるとされた。採択検討委員会では、全国学力・学習状況調査で課題とされる、「結果を分析して、考察を自分の言葉で記述していくこと」の改善について話題となり、質疑応答ののち、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いします。

【教育長】

種目、理科についての質問・意見を求める。

【委員】

前提での確認だが、資料で出ている6者を調査されて、1者は見本本がないということか。

【事務局】

そのとおり。6者のうち1者、信州教育出版を除く5社が手元にある。

【委員】

今の説明の中で、ICTを活用した学習活動の推進ということが話題となったと言われたが、理科について、なぜそこが話題になったのか理由が知りたい。

【事務局】

東京書籍5年生、72ページに理科ノートというQRコードがついている。この理科ノートを読んでいただくと分かるが、このようにデジタル上で思考の流れが書かれているノートがあるのは東京書籍のみである。このノートを見ることによって、児童もどのよう

員会では、「啓林館」は教科書の大きさがコンパクトで、持ち運びや片付けがしやすくなっていることや、子どもに学習のきっかけをうまく提示しているか、若い先生でも指導がしやすい教科書かどうかが話題となり、質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、生活についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

同じ単元で比較をする。啓林館上巻の20ページ、東京書籍上巻の26ページを御覧いただきたい。このページを開くと、両者とも1年生の夏休み前にアサガオを育てるという単元が設定されているが、啓林館はこの単元名が「私の花を育てよう」、東京書籍は「花を咲かせよう」となっている。調査研究委員会では、私の花を育てようという単元の名称の方が、子どもたちが自分事として学習が進めていけるのではないかと結論付けた。また、啓林館の教科書のページの右下を見ると、学びが連続してつながっていくように、子どもたちの思いが書いてあるのが分かる。例えば21ページ「学校でも育てたいな」、25ページ「毎日、世話を頑張るね」、27ページ「早く咲いてほしいな」と、子どもの思考が連続していくような工夫がある。また、啓林館の教科書22ページは単元の導入で、子どもたちが事象と出会う「わくわく」、その後のページではピンク色で子どもたちが実際に活動していく「いきいき」、さらにその先のページでは青色で単元のまとめ「ぐんぐん」となっている。この単元のまとめのページを比較しても、両者の特徴が表れている。啓林館の33ページには「できるかな、できたかな」というコーナーがある。単元を振り返ったときに、子どもたちの学習をもう一度確かめることができる。調査研究委員会では、このようなところで啓林館が優れていると考え、着眼点1の項目を二重丸にした。

【委員】

現在使用している東京書籍から教科書が変わるということであるが、それでよいか。

【事務局】

啓林館の方の3つの単元の流れがよく分かるという点をよりプラスとして捉えられた。東京書籍もよい点はあると思うが、啓林館の方が子どもにとってより使いやすいため、高い評価となった。

【委員】

岐阜との関連について、啓林館の評価は丸になって、東京書籍は二重丸になっていて、この辺りの評価についてはどうか。

【事務局】

ご指摘のとおり、岐阜という地域教材という視点で見たとき、東京書籍のほうが上位になっている。ただ、全ての着眼点の項目で評価をしていった場合、トータルとして啓林館の方がポイントとしては上回ったということである。

【教育長】

東京書籍が駄目だというよりも、啓林館の編集の意図が子どもたちの願い、思いや活動

に合致しているということで、子どもたちは目の前の人、もの、こと、自然に関わっていくわけであるため、直接、教科書を見てだけ勉強するのではないということで、丸になっていると考えられる。

【委員】

同様にICTを活用した部分に関しても、東京書籍が二重丸で、啓林館が丸になっているが、その点はどのように評価しているか。

【事務局】

確かに二次元コードでいうと、実は東京書籍の方が数としては多い。ただ、生活科という学習の本質は、子どもが生のものに実際に見たり触れたりすることを大事にする教科である。

【委員】

啓林館の優位性というのは、これまでの説明で理解した。それを踏まえて判断したいと思う。啓林館の方で1点だけ気になっているのが、単元のまとめの「ぐんぐん」のところに「でるかな、できたかな」と書いてあるが、上巻の33ページの花のところだと、3つぐらい挙がっている。一番下に「花を育てることが好きになったよ」というところ、下巻でも同じように、「好きになったよ」がいくつか出てくる。子どもそれぞれの思いがあるので、そういういい印象を持ってもらうのはいいというのは分からなくはないが、一定の価値観を強要するみたいなふうにとられるのではないかと若干気になるので、採択された場合には、その取扱い方については気をつけていただきたい。

【教育長】

では、種目、生活の採択について採決する。

「啓林館」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の生活については、「啓林館」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科音楽、種目音楽について事務局から説明を求める。

【事務局】

音楽では、2者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。その結果、音楽を形づくっている要素を中心に、各題材の学びが系統的・発展的に構成されている点や、器楽の学習において、児童自ら楽しみながら学びを進められるように、教材が整理されている点等から、「教育芸術社」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、「学びがつながる題材構成」や、「リコーダー等、楽器との出会いの大切さ」が話題となり、質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、音楽についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

教育芸術社4年生、30ページを御覧いただきたい。30ページには「ゆかいに歩けば」の教材がある。アでは、「ゆ、か、い、に」というスタックートの旋律、イでは、「ヴァルデリー ヴァルデラー」というスラーの滑らかに歌うという旋律の特徴が載っている。32ページの「陽気な船長」では、アでは、「ド、ソ、ド、ソ、シ、ソ、ソー」と弾む旋律、イでは、「シーシーシードラーラー」と滑らかな旋律をリコーダーで演奏する。次に、鑑賞において、「白鳥」の滑らかな旋律、参考曲として「堂々たるライオンの行進」で旋律の特徴が明らかに違うものを比べる。最後「とんび」の学習で、今まで学習したことを生かして、歌唱の表現を工夫するという流れになっている。このように、教育芸術社では、1題材の中で歌唱や器楽、音楽づくり、鑑賞の活動を配置しながら、音楽を形作っている要素である「旋律」を中心として、題材のねらいを達成できるようになっている。

続いて、教育出版の4年生、26ページを御覧いただきたい。こちらも音楽を形作っている要素である「旋律」を扱っている。例のところの音の動き方は、「ソーラーシー」「ドーシーラー」と、上行、下行する動きや、「シーレーシー」と跳躍する動き方が記載されている。旋律の動きを生かして、仲間と音をつないで弾く活動であるが、「もっと遊ぼう」のコーナーでは、リズムや拍子を工夫するといった、旋律以外の音楽を形作っている要素が出てくる。音楽を形づくっている要素を中心に、系統的・発展的に学びをつなげるということに関しては、教育芸術社のほうが優れていると審議された。

【委員】

先ほど話題に出たリコーダーについて、どういう点で議論になったのか。

【事務局】

教育芸術社の3年生20、21ページ、教育出版社の3年生18ページ、19ページを御覧いただきたい。教育芸術社では、最初に、「はじめまして、リコーダー」として、下にヘッドピースで行う音遊びが載っている。この弾き方が正しい弾き方だというものではなく、まずは遊びを通して学ぶ、そして、美しい音色を自ら探究していくという題材になっている。次のページには、支え方や座ったときの正しい弾き方、トーンホールの閉じ方、24ページではタンギングと息の使い方など、自分の学習状況に合った学び方ができる構成になっている。個別最適な学びということに関しては、教育芸術社の方が優れていると審議されている。

【教育長】

では、種目、音楽の採択について採決する。

「教育芸術社」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の音楽については、「教育芸術社」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科図画工作、種目図画工作について事務局から説明を求める。

【事務局】

図画工作では、2者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。その結果、児童の資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することにおいて、学ぶべき内容を分かりやすく表記し、発達段階が十分に配慮されている等の点から、「日本文教出版」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、「対話的な学び」に関する点が話題となり、タブレット端末を活用した交流の仕方を提示している点でも、「日本文教出版」が優位であるとの調査結果が報告された。このような質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、図画工作についての質問・意見を求める。

今の説明は、教科書のどこを見ればよいか。

【事務局】

開隆堂出版は、3・4年生下巻の42、43ページ、日本文教出版は、3・4年生下巻の48、49ページ。開隆堂出版では、版画題材についてどの学年もカラーの題材を取り上げており、4年生では初めて使用する彫刻刀での線彫りを中心とした彫りの学習内容に加え、カラー版画としての刷りも学ぶ要素を展開している。日本文教出版については、様々な種類の版画を系統的に配列している。4年生は、白、黒の版画を中心に引き上げ、彫刻刀を初めて扱う木版画の制作工程に配慮して、彫りの基本の線彫りに加え、白と黒のバランスなど、彫りの学習に重点を置いた内容になっている。さらに、高学年にも系統的につながっていくように配慮されている。

【委員】

岐阜市に適したところで、開隆堂の評価が「・」になっており、逆に日本文教出版は、どの部分が適していると評価されているのか。

【事務局】

調査項目3の岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科書用図書について、開隆堂出版には表記がない。日本文教出版については、5・6年生下巻の59ページに岐阜県にゆかりのある伝統産業として和紙を取り上げ、制作工程を紹介している。また、和紙のよさを生かして作られた水うちわやランプシェードなどは、美濃市だけでなく、岐阜市でもなじみがあるものになっている。他にも1・2年生の下巻には、岐阜県にゆかりのある作家である渡辺泰幸さんのアートや、3・4年生の上巻では、岐阜メモリアルセンターの岡本太郎さんの作品についても紹介されている。

【委員】

特に問題ないと思うが、調査研究の視点の1の資質・能力に差があるが、具体的に知りたい。

【事務局】

開隆堂は、学習のめあてを資質・能力の3つの柱に対応し、3項目に分けられている。特に大切なめあてには、文字等を赤色にして下線を引いたりして示している。日本文教出版は、学習のめあてについて、全題材で資質・能力の3つの柱に対応し、「知識及び技能」

が2項目、「思考力・判断力、表現力」が2項目、「学びに向かう力・人間性等」が1項目の合計5項目に細分化して、評価基準とつなげている。5項目ということで、少し複雑になっているのではないかという審議がされた。

【委員】

今の回答からすると、日本文教出版の方も必要な要素は書かれている。別に抜けていることではないという趣旨で理解したが、それでよろしいか。

【事務局】

それでよい。

【教育長】

では、種目、図画工作の採択について採決する。

「日本文教出版」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の図画工作については、「日本文教出版」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科家庭、種目家庭について事務局から説明を求める。

【事務局】

家庭では、2者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。その結果、題材導入で「話し合おう」の活動を位置付け、自分の生活を見つめることができるように促し、主体的・協働的な学びの充実を図り、深い学びにつなげていること、動画資料「プロに聞く！」が掲載され、問題解決的な学習を進める際に効果的に活用ができる等の点から、「東京書籍」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、防災、安全、コロナ禍での調理技能の習得について話題となり、更なる質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、家庭についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

東京書籍の8ページから11ページは、「確かめよう」ということで、衛生、安全に気をつけて実習をしようという内容が記載されている。実習の前に、調理実習で気をつけること、調理用具の正しい取り扱い方の説明が記載されている。題材ごとにそれぞれ注意点はありますが、教科書の最初のページに安全面について記載し、いつもここに立ち戻れば、実習を始める前に気をつけることや防災、安全について、学習することができるようになっている。

【教育長】

開隆堂にはそういうページはないのか。

【事務局】

題材ごとにはある。しかし、最初のページに書いてあるということでは、東京書籍の方が確認をしやすいと議論された。いつも最初のページを見ればいいよと示すことで、5年生になっても、6年生になっても間違いなく確認ができる。

【委員】

今、説明があった安全指導については、確かに毎回必ずここを見るという習慣をつけ、意識付けをするという点で有効だと思う。学校内で理科の実験とか家庭科の実習とか、事故防止は重要である。こういう形で安全面に十分な配慮をするというのは必要内容と思うので、実際、採択された場合には、そういう使い方をするというのを意識して示していただけるとありがたい。

さらに、小学校の家庭科レベルでも消費者の問題とか契約の問題とか、かなり詳細に学ぶようになったことから、時代が変わったことを感じている。そこで全体的に見て、東京書籍の方が、小学校5・6年生の段階では分かりやすいという印象を持った。一例として、契約の説明が、東京書籍では38ページ、開隆堂では61ページに図でそれぞれ示されているが、開隆堂の図は確かに緻密であるが、ここまで詳細な内容が必要かと思う。それよりは、東京書籍は事例が書いてあり分かりやすい。権利・義務のところも契約が成立したらということが端的に書いてあり、内容としても落ち度なく非常に分かりやすいという印象を持った。そういう意味でも、東京書籍の方がよいと感じた。

【委員】

どの部分が主体的なのかと思って見ていて、たまたま開いたページが裁縫だった。東京書籍の方は、最後に「夏休みわくわくチャレンジ」、「やったことを自分で実践してみましよう」という項目があり、開隆堂の方は、「生活に生かそう」で終わっている。確かにそういう部分では、次に促すページがあるという東京書籍の方がよいと納得した。

【委員】

トータルとしてはそれでよいと思うが、開隆堂の最後のページは、家庭科でよく使われる用語が表に書き出してある。自分としては、こういうのがよいと思った。

【教育長】

では、種目、家庭の採択について採決する。

「東京書籍」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の家庭については、「東京書籍」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科体育、種目保健について事務局から説明を求める。

【事務局】

保健では、6者の教科書見本について、資料①にある着眼点に基づき、各者の特徴、よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、1項目4ページ構成になっており、導入部分で課題を適切に自分ごとに行うことができるような工夫がなされている点や、動画やシ

ミュレーション、ワークシート、思考ツールなどのウェブコンテンツが充実している点で「東京書籍」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、ウェブコンテンツの内容に係る質問が出されたが、調査研究により、掲載数が豊富であることに加え、一つ一つの学習内容の説明も非常に丁寧であることが確認された。このような説明ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いします。

【教育長】

種目、保健についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

5・6年生の教科書で、学研は52ページ、東京書籍は46ページを御覧いただきたい。先ほど思考ツールについて話したが、東京書籍では46ページに思考ツールの一部が掲載されている。思考ツールというのは、1つのテーマを多面的に捉え、関連性を深めたり、考え方の幅を広げたりすることができる作業シートのことである。保健分野においては、授業で学習したことをより自分の実生活に置き換えて、自分事に捉えられるように進めている。そういった視点で考えると、学研は最初から答えが書いてあることに比べ、東京書籍は中央に風邪を引くというキーワードのみ示してあり、ここに自分の実生活をイメージして様々なことを書けるようになっている。また、このシートはウェブコンテンツにも上がっているので、同時にそちらの方でも使うことができる。

【委員】

こちらの採択案どおりだと、本年度使用している教科書から変わるようになると思うので、現在の学研は、今回の評価と比較してどうなのか、東京書籍の優位性はどのようなところなのか知りたい。

【事務局】

資料に二重丸、丸で示したように、子どもたちに1人1台ずつタブレットが貸与され、よりウェブコンテンツを効果的に活用できる環境が整った。そのことを踏まえて研究会の中では審議されている。また、「ふるさとへの誇りと愛着を育むふるさと教育の推進」とあるが、この点、東京書籍、学研ともに3年生、4年生の25ページには、それぞれ子どもたちの安心、安全を保障してくれる大人の存在が紹介されている。東京書籍の方には、学研にはない、スクールソーシャルワーカーが紹介されている。スクールソーシャルワーカーは、子どもたちには身近な存在ではないかもしれないが、岐阜市には、子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」があり、そちらにスクールソーシャルワーカーの方が常駐して、子どもたちを支えていただいている。岐阜市の特徴の一つと考えると、東京書籍の方が岐阜市の子どもたちに合っていると調査研究委員会で判断された。

【委員】

今の説明で調査研究委員会の意見が分かった。それを基に判断したい。実際に採択された場合には、今のような優位性について活用できるような配慮をお願いします。

【教育長】

保健の教科書についても発行者が変わる形になる。質問は他にないか。

では、種目、保健の採択について採決する。

「東京書籍」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の保健については、「東京書籍」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、教科外国語、種目英語について事務局から説明を求める。

【事務局】

英語では、6者の教科書見本について、資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。その結果、単元終末の言語活動の工夫、着眼点2(2)ICTを活用した学習活動の充実、着眼点2(3)多様な学びを支援する教育の充実等の点から、「東京書籍」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、岐阜市の英語事業との関わりや、別冊の取扱いや充実度について、さらに各者における言語活動の習得と活用のバランス等が話題となり、質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、英語についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

単元のまとめのページにおける各者の言語活動の主な特徴について、評価の高かった3者のうち6年生の将来の夢に関する単元の終末のページについて、東京書籍6年生の86ページ、87ページ、開隆堂6年生の92ページ、93ページ、三省堂6年生の90ページ、91ページをご覧いただきたい。東京書籍86ページの冒頭、エンジョイコミュニケーションの部分で、お互いの夢を応援するために、将来したいことを伝え合おうと、この授業の学習課題が明記されている。学習指導要領には、児童が既習の知識、技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を育成するために言語活動を充実させる重要なポイントとして、コミュニケーションの目的や場面、状況を明確に設定するように示されている。小学校卒業を控え、これまで共に過ごしてきた学級の仲間に対して、将来したいことをただ話して終わるのではなく、お互いの夢を知り、励まし合えるようにと、すなわち何のために伝え合うのかといったコミュニケーションの目的が明確に示されている。また、自分の考えをつくる際には、表現例や単語例、参照するためのページも示されており、児童が必要に応じて参考にすることができるようになっている。このように、東京書籍の教科書は、他者と比較し、児童にとって言語活動が充実したものになるよう、学習課題を解決するための支援やよりきめ細かな配慮がなされていることが分かる。

続いて、着眼点2(2)ICTを活用した学習活動の充実に関わって、学習者用デジタル教科書の特徴について説明する。令和6年度から、英語のみ、紙の教科書に加えて、学習者用デジタル教科書が提供されることになっており、各者ともに音声動画再生機能、書き込み機能があり、個別最適な学びや協働的な学びを充実させることができる。また、特

別支援教育、ユニバーサルデザインの配慮についても、各者ともにユニバーサルデザインのフォントを使用し、配色や文字の大きさも配慮されている。

このような中でも、東京書籍は、言語活動の際に役立つ会話練習動画や探したい語彙を簡単に探せるデジタルディクショナリー、日本や世界の場所、物を探して、書き写しや音声ができるデジタルマップ等で、個の実態に応じた学習の進め方を選択することができるようにされている。他者と比べてより多くのコンテンツが、5・6年生合わせて計650以上準備され、学習のサポートが充実していると言える。

【委員】

教科書展示会の際に東京書籍の英語について、厳しい意見もあったかと思う。英文の量が多過ぎるとか、書くところが多過ぎるなど、その点に関してはどうか。

【事務局】

岐阜市は1年生から英語学習を進めている。小学校1年生から英語に十分慣れ親しみ、6年生でこれだけの文量を書けるようになって、中学校に接続できるという点でも、東京書籍は岐阜市の子どもたちに合っていると判断して、審議している。

【委員】

承知した。

【教育長】

岐阜市の子どもたちの英語力は高いから、十分対応できるという方針か。

【委員】

今の観点は非常に重要だと思っており、そうやって積み重ねてきているのに、5年生、6年生で教科書の内容があまりにも簡単過ぎるとなると、そこまで積み上げてきたものを十分に活用できない状況となる。そういう意味では、岐阜市の子どもたちに合うという観点で東京書籍の方がよいという今の説明は十分だと感じた。

【教育長】

では、種目、英語の採択について採決する。

「東京書籍」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の英語については、「東京書籍」を採択することに決定する。

【教育長】

次に、特別の教科道徳、種目道徳について事務局から説明を求める。

【事務局】

道徳では、6者の教科書見本について資料①の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究が進められた。その結果、特に着眼点1（1）『「特別な教科道徳」の目標である「道徳的判断力」、「道徳的心情」、「道徳的実践意欲」（道徳性）の育成』の適切さ、着眼点1（3）「道徳的価値の理解を深めるために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を進めるための工夫、そして着眼点2（2）「ICTを活用した学習活動の充実」が可能となるQRコンテンツの内容から、「東京書

籍」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、「岐阜市に関わる資料」を多く扱う教科書として「日本文教出版」の方がよいのではないかという意見もあったが、岐阜市では道徳のみならず、「ぎふMIRAI's」を含む全教育活動の中で実現可能であるということとなった。また、発行者によって、児童に投げかける問いに差異があるのではないかという意見もあったが、このことは、学校や児童の実態に応じて指導方法が工夫改善されるものであるという共通理解をした。これらの意見も踏まえて、「東京書籍」がよいという方向となり、更なる質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。審議をお願いする。

【教育長】

種目、道徳についての質問・意見を求める。

委員に見ていただくときの特徴的なページはあるか。

【事務局】

道徳の資料は、各教科書で異なっている部分もあるため、共通で扱われている資料をもとに東京書籍と、次に評価の高かった日本文教出版、現在、使われている光文書院の3つの教科書について順に説明をする。東京書籍1年生の36ページ「橋の上のオオカミ」の資料であるが、子どもたちは、文字と挿絵を見ながら話を聞く。「考えよう」で「熊の後ろ姿を見送ったときいたオオカミは、どんなことを考えていますか。」と教師が尋ねたとき、やはり1年生なので、挿絵が欲しいところ。そのとき、36ページのような挿絵があると、子どもたちはオオカミの気持ちを考えやすくなる。挿絵が非常に分かりやすいという点が東京書籍の特徴である。日本文教出版1年生の70ページから72ページを見ていただきたい。橋の上のオオカミの挿絵は、親しみやすく、優しい感じの絵となっており、子どもたちが話を想像しやすい。また、日本文教出版1社だけが、道徳ノートを扱っており、その20ページが橋の上のオオカミになるが、こういった書く活動を通して、児童の道徳性の成長の様子や学習の状況を把握できるようになっている。意図はよく分かるが、小学校1年生の1学期に文字を書く活動は現実的ではなく、実際には低学年には使いにくいと考えた。また、現在は、各学校で独自に工夫された道徳ノートを使用しており、このようなノートは、岐阜市においては必要がないという調査結果になった。続いて、光文書院1年生の86ページを見ていただきたい。この挿絵は、優しい感じの絵となっており、子どもたちが話を想像しやすく紙芝居のようにになっている。「考えてみよう」には、発問が2つある。1つ目「ウサギがいっぱいだったときと優しくしたときのオオカミの気持ちは何が違うのかな。」、2つ目「オオカミは、どうしてウサギに優しくできたのかな。前よりずっといい気持ちになったオオカミはどんなことを考えていたのかな。」と教師が尋ねるときの挿絵が載っている。このように、導入、展開、終末、発展等、発問が5つになり、丁寧に授業を進める意図は分かるが、反面、発問が多くなり、考え、議論する時間が逆に少なくなってしまうのではないかという点が考えられる。従って、東京書籍の教科書が一番よいという調査結果となった。

【委員】

道徳については、採択案どおりだと現在使用している教科書が変更になるので、今まで

使用していた光文書院の評判というところ、それに比して、今回の東京書籍のほうの優位性について、どういう判断がされたのかについて教えてほしい。

【事務局】

発問がたくさんあるということで、逆に発問が吟味しづらいというところが調査の中で出た。また、優位性については、調査の視点のICTを活用した学習の工夫が二重丸と丸で差をつけているが、QRコンテンツの数だけでも大きな違いがあり、光文書院はQRコードが6学年トータルで65個、東京書籍はトータルで300個ある。その数だけではなく、内容にも差異がある。QRコンテンツを東京書籍で読み込むと、例えば朗読、挿絵のスライドショー、デジタルノートなどがあり、教材によっては、考えを広げられるような教材が位置付けられている。そういった点からも東京書籍が優位と審議された。

【委員】

東京書籍のいじめについて考えるところについて、命についてとか、これは東京書籍ならではの考え方か。

【事務局】

いじめについては、基本的にはどの発行者も重要視し、大切に扱われている。東京書籍では、特に、いじめの場면을直接的に扱う教材と、関係する価値から間接的に扱う教材、コラムにつながるものを組み合わせて、多面的・多角的にいじめの未然防止について考えられるように工夫されている。

【教育長】

では、種目、道徳の採択について採決する。

「東京書籍」を採択することに賛成の方の挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、小学校の道徳については、「東京書籍」を採択することに決定する。

【教育長】

34号議案はこれで終わることとする。

続いて、35号議案、中学校の教科書について審議を続ける。

【事務局】

中学校では、令和2年度に採択し、令和3年度から使用している教科書について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条によれば、政令で定める4年間、同一の教科用図書を採択することとされている。中学校の教科用図書は、本年度「4年ごとの節目の年」、いわゆる「採択替えの年度ではない」ため、令和4年度と同一の教科用図書を採択することとされている。なお、無償措置法施行規則第6条に掲げる「採択した教科書が発行されない場合」や、「採択地区に変更があるなどの場合」については、令和4年度に採択した教科書と異なる教科書を採択することができることとされているが、該当はない。資料には、現在岐阜市立中学校で使用している教科書を示している。また、現在、中学校の教育現場で使用している先生方の意見について、岐阜市の教科等指導員中心に聞いた結果を記載している。各者とも、新しい学習指導要領や今日的な課題を踏まえ、

児童生徒が見通しをもち、教科特有の「見方・考え方」を働かせながら主体的に学べる内容になっていること、学習者である子どもの目線に立って見やすく、扱いやすい構成になっていることについての意見をいただいている。採択替えの年度ではないこと、現場で使用する先生方の意見が概ね良好であることから、引き続き、本年度も中学校については、同一の教科用図書を採択し、来年度も同一の教科用図書を使用することとして提案する。審議をお願いする。

【教育長】

それでは、質疑に移る。採択替えの年度ではないという説明があったが、中学校の教科書採択について、質問、意見を受ける。特に現場から使いにくいという意見が上がっているわけではない。

【委員】

現行の教科書の使いづらいところも意見を出していただいて、そうしたときにはどのように現場で工夫していくかなどということもやはり大切だと思う。是非、そういった声も出して、現場の先生方と一緒に考えていけるようお願いしたい。

【委員】

コロナがあって、学習の仕方が変わっていったと思うが、そういったところでの使用感の違いなど、現場からの声は上がってはいるのか。従来だったら、普通にこういうふうに使えたけれども、リモートがあったりして、ちょっと使いにくかったとかいう意見はないか。

【事務局】

特段、そのときの声は聞いていないが、今回、使用している教科書は、学習指導要領改訂に合わせた教科書であり、中身を見ると、ICTの活用について多く記載されていて、ここ2、3年の中でシフトしてきているということは感じる。そうなったときに、中学校の教科書においてもQRコードがついており、参考になるような資料の記載があるものを使用していることから、授業形態が変わろうとも困ったという声は今のところは聞いていない。また情報収集して、対応できるところはしていきたい。

【教育長】

それでは、採決をする。

中学校用教科書について、教育委員会として、前回採択した教科書発行者を採択することに挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、前回の採択と同様の発行者を採択することとする。

35号議案について終了することとする。

【教育長】

最後に、第36号議案 特別支援学校の教科書採択について、事務局から説明を願う。

【事務局】

岐阜特別支援学校の教科書は、「著作教科書（通称：☆本）」と「学校教育法第9条第

1項の規定による教科書（通称：9条本）」の2つから採択されている。「著作教科書（☆本）」は文部科学省が著作したものであり、幅広い障がいの度合いに対応し、非常に汎用性の高いものであるため、多くの特別支援学校が採択しているものである。この「著作教科書」は、国語、算数・数学、音楽があり、発達段階や障がいの度合いに合わせて学習ができるようになっている。小学部の☆☆では、あいさつなど身の回りものの名前など、言葉の使い方や文字の認識を中心とした学習内容となっているため、できるだけ文字をなくし、イラストや図を多用して、視覚的に理解ができるようになっている。また、子どもの実態に合わせて文字を習得できる内容となっている。中学部の☆☆☆☆では、将来の自立を目指した日常生活に必要なスキルを身に付ける内容となっている。具体的には手紙の書き方やローマ字の習得を目指した学習で活用している。高等部工業コースでは、自立を目指すため一般図書を選定しているが、普通コースにおいては☆☆☆☆を継続して使用している。「一般図書」を採択する際には、児童生徒の障がいの種類・程度、特性および心身の段階に最もふさわしい内容、文字、表現、挿絵、取り扱う題材等の図書を適切に選定することとしている。また、文字の大きさやフォントなど、子どもたちの実態や学習活動の状況にも十分に配慮が必要であり、使用頻度や、年度をまたいで使用するなど、特別支援学校の児童・生徒の実態に合わせて選定している。

小学部の「一般図書」について報告する。図画工作では、様々な表現方法を発達段階に応じて学ぶことができる教科書を選定している。例えば2年生では「らくがき」をテーマにした表現を学ぶ。これは、鉛筆やクレヨンやマジックペンなど様々な種類のものをつかむことができる発達段階を考慮したものである。5年生になると「はり絵」、6年生になると「絵の具」を使った表現を、子どもたちの障がいの実態や発達段階を考慮し、教育課程に合わせた選定を行っている。中学部の「一般図書」について、社会科では、社会生活に必要なきまりにかかわる学習を通して、家庭や学校での決まりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さを学んでいく。そのため、手順をイラストで示し、視覚的に理解できる教科書を選定している。これらの「一般図書」を使用することで、繰り返し学びながら習得をしていく生徒が社会生活に必要な知識や技能を身に付けることに加え、社会性を身に付けることができると考える。

岐阜特別支援学校において、6月27日に、学識経験者やPTAの代表者を招聘し、「教科書選定委員会」を行った。使いやすく、子どもたちが使いたくなる教科書を選定している。文字での理解に加え、イラストや図、配色などにも十分に配慮した教科書を選定している。保護者の意見を取り入れ、毎日楽しく学習できるような教科書の選定をしている。特別支援学校だからこその系統性と汎用性の視点から選定をされている。などのご意見をいただいた。岐阜特別支援学校の教科書においては、子どもたちのペースで学びを進めることができる教科書を選定している。審議をお願いします。

【教育長】

岐阜特別支援学校にて選定委員会を行っていただいて、こちらの方に提案いただいた。

特別支援学校の教科書採択について、質問、意見を受ける。

【委員】

選定理由書の見方だけ教えてほしい。選定理由のところに「継続使用」と書いてあり、その後丸が打ってあるのがあるが、この違いは何か。

【事務局】

○印は新規、印のない者は継続使用ということである。

【委員】

というと、1点を除いて、ほぼ継続使用だと思うが、特段、今まで使用してきた、いずれも大きな支障などがないという前提でよろしいか。

【事務局】

そのとおりである。丸がついている子たちは、例えば2年生のお子さんは丸がついているが、1年生のときに、1・2年と同じ☆1とかを使用するので、持っているものをそのまま次の学年も使うということになる。

【教育長】

採決をする。特別支援学校用教科書について、教育委員会として、提案どおりの教科書を採択することに賛成の方は挙手を求める。

*委員全員の挙手を確認

採決の結果、提案どおりの教科書を採択することとする。

長時間にわたり、慎重な審議、ありがとうございました。

以上で、第34号議案から第36号議案についての審議を終了とする。

事務局は、引き続き県への報告等、適切に対応願う。